

東北支所

東北支所は岩手県盛岡市に所在し、東日本大震災からの東北地域の復興と林業の活性化に貢献するためさまざまな取り組みを行っています。

1 海岸林の再生

青森県から福島県にかけての海岸林は、東日本大震災の津波で甚大な被害を受けました。東北支所では震災直後から被害調査を行い、海岸林が被害拡大阻止に大きな役割を果たしたことを明らかにしました(写真1)。また、津波で倒れた海岸林の再生を図る上で問題となる津波浸水地の土壌塩分の変化や地下水位の観測を行い(写真2)、国や地方自治体等に対して情報提供や植栽事業への助言を行っています。



写真1 海岸林が漂流物を受け止めた例



写真2 地盤沈下による地下水位の上昇
(マツの根が成長できなくなります)

2 海岸マツ林の松くい虫被害調査

津波による倒伏を免れた海岸林のクロマツやアカマツに、その後衰弱木や枯死木が発生しており、松くい虫被害の発生源になることが危惧されました。そこで、岩手県と宮城県の各地の海岸でマツの枯れ方を調査した結果、現状では松くい虫被害の発生源としての危険性はあまり高くないことが分かりました。ただ、マツは海岸林再生事業における第一選択樹種であるだけでなく、東北地方の北部には松くい虫被害を受けていないマツ林が広がっています。地域の重要な森林資源であるマツ林を保護するために、感染の有無を短時間で検出できるマツノザイセンチュウ検出キットを使って今後とも注意深く観察していく必要があります。



写真3 松くい虫を短時間で検出する方法

3 森林の放射能汚染調査

放射性物質の問題については、つくば市にある森林総研本所に専門の部署を設置して調査と情報発信の一元化を図っています。東北支所も本所と共同で福島県の森林で放射性セシウムの移動等の調査に当たっているほか(写真4,5)、情報提供の面で地域と本所を繋ぐ役割を果たしています。私たちは、震災からの復興の取り組みを今後とも迅速に行っていきます。



写真4 福島県の森林における放射性セシウム流出のモニタリング



写真5 森林内の雨や落葉による放射性セシウムの移動の測定

4 低コスト再造林技術の開発

地域経済の活性化と環境保全や温暖化対策を具現化していくために、森林資源を無駄なく循環して利用することが必要です。しかし、東北地方では木材価格の低迷によって伐採後の再造林を放棄する所有者がかなりの割合で発生しています。そのため、森林所有者の再造林意欲を喚起するために、再造林コストを従来の半分程度まで低減させ、森林所有者に利益を還元できる低コスト化技術の開発に取り組んでいます。東北地方の多雪環境下での再造林低コスト化のポイントは、コンテナ苗の活用、下刈り回数の削減、低密度植栽、伐採から造林までを一体的に行う一貫作業システム(写真6)の導入、の4点に集約されます。現在、東北地方各県の研究機関や民間事業者との産学官連携の下で課題に取り組んでいます。



集材後はグラップルで地拵え



フォワーダでコンテナ苗を搬入



コンテナ苗を低密度で直ちに植栽

写真6 一貫作業システム
(伐採、搬出、地拵え、植栽を同時進行で行うことによる作業コストの削減をめざします)